

(特非) ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

アジアの化学物質管理に関する国際市民セミナー の開催と化学物質管理に関する政策提言活動

イベントの 延べ参加者数	262人
イベント参加者の 満足度	100%
活動の全体目標 に対する達成度	95%



11月22日のアジアの化学物質管理国際セミナー

◆成果と工夫したポイント

●成果

国際セミナーで95人、前後の学習会を合わせのべ262人の参加者を得た。アジアのNGOとの議論や、関係省庁へのヒアリングにより、日本の課題である消費者の直接ばく露対策を政策提言としてまとめた。

●工夫

国際セミナーで、日本から大阪府の化学物質事故対策についての報告をいただいたため、相互理解が進んだ。

課題

化学物質による人の健康被害と、環境への悪影響を最小化するという2020年目標達成のために、アジア地域の環境NGOと連携して課題を明らかにする必要がある。

目標

アジア地域のNGOを招いて国際セミナーを開催し、共通課題を見つけ、また、日本の課題を明らかにすることで、2020年目標を達成するために必要な施策について政策提言を作る。

活動内容

- 1) 11月22、23日にアジア地域の化学物質管理に関する国際セミナーを開催した。
- 2) 7月26日、3月12日に化学物質に関する学習会を開催。10月20、27日、12月8、15日に、関係省庁の化学物質管理の施行状況についてヒアリングを実施した。
- 3) ニュースレターで最新情報を提供。「ヨハネスブルクサミット(WSSD)2020年目標達成のための日本の化学物質管理制度に関する提言」を作成した。



日本の化学物質管理制度に関する政策提言書

達成できなかったこと

政策提言は、一般向けに分かりやすいイラストを入れたリーフレットにしたかったが、関連する政府の検討会が3月まで続き、傍聴やヒアリングの必要があり、提言書だけになった。

今後の展望

日本の課題が、消費者の直接ばく露による有害影響への取組みが不足している点であることが明らかになったので、その点に重点をおいた取組みをしていきたい。